

連結財務諸表

金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、当行の連結貸借対照表、連結損益計算書及び連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書及び連結附属明細表については、有限責任 あずさ監査法人の監査証明を受けております。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	2017年度末 2018年3月31日現在	2018年度末 2019年3月31日現在
(資産の部)		
現金預け金	52,122,407	55,747,048 ※8
コールローン及び買入手形	1,881,879	2,665,744
買現先勘定	1,675,693	5,082,709
債券貸借取引支払保証金	3,562,107	1,440,159
買入金銭債権	4,550,592	4,582,886 ※8
特定取引資産	2,408,549	2,452,825 ※8
金銭の信託	0	0
有価証券	25,217,287	23,469,621 ※1,2,8,16
貸出金	75,853,934	79,792,401 ※3,4,5,6,7,8,9
外国為替	2,164,196	1,715,759 ※7
リース債権及びリース投資資産	252,507	247,835
その他資産	3,923,004	3,571,248 ※8
有形固定資産	1,410,800	1,409,802 ※10,11,12
賃貸資産	594,576	573,292
建物	302,996	308,990
土地	416,592	421,156
リース資産	2,984	2,597
建設仮勘定	19,404	22,561
その他の有形固定資産	74,247	81,203
無形固定資産	311,810	375,389
ソフトウェア	259,587	274,116
のれん	12,727	12,003
リース資産	21	11
その他の無形固定資産	39,474	89,259
退職給付に係る資産	377,768	324,672
繰延税金資産	28,789	23,399
支払承諾見返	7,373,185	8,121,131
貸倒引当金	△387,022	△332,343
資産の部合計	182,727,495	190,690,293

(単位：百万円)

科目	2017年度末 2018年3月31日現在	2018年度末 2019年3月31日現在
(負債の部)		
預金	117,227,296	123,190,830 ※8
譲渡性預金	11,455,284	11,335,486
コールマネー及び売渡手形	740,928	572,778
売現先勘定	5,256,519	8,743,386 ※8
債券貸借取引受入担保金	3,324,893	680,051 ※8
コマーシャル・ペーパー	2,385,705	2,291,813
特定取引負債	1,907,416	1,818,610
借入金	13,973,112	15,988,948 ※8,13
外国為替	906,429	1,196,960
社債	3,255,697	2,955,282 ※14
信託勘定借	1,328,271	1,352,773 ※8,15
その他負債	3,983,839	2,929,172
賞与引当金	32,826	34,283
役員賞与引当金	1,333	1,249
退職給付に係る負債	6,552	4,457
役員退職慰労引当金	671	669
ポイント引当金	966	468
睡眠預金払戻損失引当金	17,765	7,936
繰延税金負債	427,853	446,993
再評価に係る繰延税金負債	30,539	30,259 ※10
支払承諾	7,373,185	8,121,131 ※8
負債の部合計	173,637,092	181,703,543
(純資産の部)		
資本金	1,770,996	1,770,996
資本剰余金	1,970,412	1,966,353
利益剰余金	3,451,151	3,743,614
自己株式	△210,003	△210,003
株主資本合計	6,982,557	7,270,960
その他有価証券評価差額金	1,509,249	1,426,493
繰延ヘッジ損益	△66,918	△47,281
土地再評価差額金	37,042	36,531 ※10
為替換算調整勘定	12,710	24,371
退職給付に係る調整累計額	60,463	△5,446
その他の包括利益累計額合計	1,552,547	1,434,667
新株予約権	—	2,210
非支配株主持分	555,298	278,910
純資産の部合計	9,090,403	8,986,749
負債及び純資産の部合計	182,727,495	190,690,293

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	2017年度	2018年度
	自 2017年4月 1 日 至 2018年3月31日	自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日
経常収益	3,117,087	3,369,898
資金運用収益	1,901,507	2,240,944
貸出金利息	1,290,981	1,481,622
有価証券利息配当金	331,893	354,451
コールローン利息及び買入手形利息	19,464	16,561
買現先利息	34,278	36,101
債券貸借取引受入利息	2,588	2,512
預け金利息	74,009	101,030
リース受入利息	7,699	6,378
その他の受入利息	140,592	242,285
信託報酬	3,769	4,541
役務取引等収益	632,125	613,741
特定取引収益	85,312	80,112
その他業務収益	238,304	225,361
賃貸料収入	37,239	44,732
割賦売上高	23,078	8,600
その他の業務収益	177,985	172,028
その他経常収益	256,067	205,196
貸倒引当金戻入益	43,984	35,622
償却債権取立益	164	647
その他の経常収益	211,918	168,926 ※1
経常費用	2,184,353	2,475,397
資金調達費用	748,234	1,138,789
預金利息	282,966	463,791
譲渡性預金利息	86,817	136,178
コールマネー利息及び売渡手形利息	8,686	14,586
売現先利息	48,851	122,755
債券貸借取引支払利息	10,394	959
コマースナル・ペーパー利息	18,393	45,356
借入金利息	133,290	197,488
社債利息	88,810	87,594
その他の支払利息	70,022	70,078
役務取引等費用	167,832	162,563
特定取引費用	4,127	4,430
その他業務費用	93,120	79,991
賃貸原価	18,988	26,296
割賦原価	14,515	—
その他の業務費用	59,617	53,694
営業経費	1,098,224	1,009,410 ※2
その他経常費用	72,813	80,212 ※3
経常利益	932,733	894,501
特別利益	798	2,788
固定資産処分益	798	502
その他の特別利益	—	2,285 ※4
特別損失	46,568	8,833
固定資産処分損	2,165	4,260
減損損失	44,402	4,573 ※5
税金等調整前当期純利益	886,964	888,456
法人税、住民税及び事業税	212,275	165,371
法人税等調整額	△8,370	54,107
法人税等合計	203,904	219,479
当期純利益	683,059	668,976
非支配株主に帰属する当期純利益	55,477	51,483
親会社株主に帰属する当期純利益	627,582	617,493

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結包括利益計算書

(単位：百万円)

科目	2017年度	2018年度
	自 2017年4月1日 至 2018年3月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
当期純利益	683,059	668,976
その他の包括利益	99,442	△120,740 ※1
その他有価証券評価差額金	113,345	△78,282
繰延ヘッジ損益	△31,163	27,672
土地再評価差額金	1	—
為替換算調整勘定	△43,565	12,682
退職給付に係る調整額	49,110	△67,113
持分法適用会社に対する持分相当額	11,714	△15,698
包括利益	782,502	548,236
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	738,503	500,124
非支配株主に係る包括利益	43,999	48,111

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書

(単位：百万円)

	2017年度 自 2017年4月 1 日 至 2018年3月31日				
	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,770,996	1,958,660	3,045,979	△210,003	6,565,632
当期変動額					
剰余金の配当			△223,334		△223,334
親会社株主に帰属する 当期純利益			627,582		627,582
組織再編による増加		11,678			11,678
非支配株主との取引に係る 親会社の持分変動		73			73
土地再評価差額金の取崩			923		923
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	11,752	405,172	—	416,924
当期末残高	1,770,996	1,970,412	3,451,151	△210,003	6,982,557

(単位：百万円)

	2017年度 自 2017年4月 1 日 至 2018年3月31日								
	その他の包括利益累計額						新株予約権	非支配 株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	1,397,396	△39,174	38,041	35,589	10,773	1,442,626	276	899,656	8,908,192
当期変動額									
剰余金の配当									△223,334
親会社株主に帰属する 当期純利益									627,582
組織再編による増加									11,678
非支配株主との取引に係る 親会社の持分変動									73
土地再評価差額金の取崩									923
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	111,853	△27,744	△998	△22,878	49,689	109,920	△276	△344,358	△234,714
当期変動額合計	111,853	△27,744	△998	△22,878	49,689	109,920	△276	△344,358	182,210
当期末残高	1,509,249	△66,918	37,042	12,710	60,463	1,552,547	—	555,298	9,090,403

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(単位：百万円)

	2018年度 自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日				
	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,770,996	1,970,412	3,451,151	△210,003	6,982,557
当期変動額					
剰余金の配当		△4,059	△325,332		△329,392
親会社株主に帰属する 当期純利益			617,493		617,493
土地再評価差額金の取崩			302		302
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					
当期変動額合計	—	△4,059	292,463	—	288,403
当期末残高	1,770,996	1,966,353	3,743,614	△210,003	7,270,960

(単位：百万円)

	2018年度 自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日								
	その他の包括利益累計額						新株予約権	非支配 株主持分	純資産合計
	その他 有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付 に係る 調整累計額	その他の 包括利益 累計額合計			
当期首残高	1,509,249	△66,918	37,042	12,710	60,463	1,552,547	—	555,298	9,090,403
当期変動額									
剰余金の配当									△329,392
親会社株主に帰属する 当期純利益									617,493
土地再評価差額金の取崩									302
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)	△82,756	19,636	△510	11,660	△65,910	△117,879	2,210	△276,387	△392,056
当期変動額合計	△82,756	19,636	△510	11,660	△65,910	△117,879	2,210	△276,387	△103,653
当期末残高	1,426,493	△47,281	36,531	24,371	△5,446	1,434,667	2,210	278,910	8,986,749

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

区分	2017年度	2018年度
	自 2017年4月 1 日 至 2018年3月31日	自 2018年4月 1 日 至 2019年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	886,964	888,456
減価償却費	129,538	134,854
減損損失	44,402	4,573
のれん償却額	2,693	5,430
段階取得に係る差損益 (△は益)	—	△2,285
持分法による投資損益(△は益)	△42,060	△44,772
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△76,372	△63,850
賞与引当金の増減額(△は減少)	2,413	△2,414
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	416	△70
退職給付に係る資産負債の増減額	△26,577	△30,594
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	57	△2
ポイント引当金の増減額(△は減少)	△85	△498
睡眠預金払戻損失引当金の増減額(△は減少)	3,704	△9,828
利息返還損失引当金の増減額(△は減少)	30	—
資金運用収益	△1,901,507	△2,240,944
資金調達費用	748,234	1,138,789
有価証券関係損益(△)	△140,130	△99,263
金銭の信託の運用損益(△は運用益)	△0	△0
為替差損益(△は益)	267,277	△170,680
固定資産処分損益(△は益)	1,367	3,757
特定取引資産の純増(△)減	539,855	△5,085
特定取引負債の純増減(△)	△505,424	△137,628
貸出金の純増(△)減	919,263	△3,402,879
預金の純増減(△)	6,219,382	5,267,321
譲渡性預金の純増減(△)	△952,574	△138,017
借入金(劣後特約付借入金を除く)の純増減(△)	1,258,513	1,908,235
有利息預け金の純増(△)減	△1,152,087	1,442,331
コールローン等の純増(△)減	139,769	△4,238,962
債券貸借取引支払保証金の純増(△)減	47,795	2,121,947
コールマネー等の純増減(△)	2,577,944	3,346,382
コマーシャル・ペーパーの純増減(△)	109,064	△95,377
債券貸借取引受入担保金の純増減(△)	209,688	△2,644,841
外国為替(資産)の純増(△)減	△452,829	447,784
外国為替(負債)の純増減(△)	188,606	289,580
リース債権及びリース投資資産の純増(△)減	△9,576	1,776
普通社債発行及び償還による増減(△)	△555,868	△351,613
信託勘定借の純増減(△)	147,294	24,502
資金運用による収入	1,857,727	2,186,546
資金調達による支出	△730,575	△1,097,776
その他	△653,758	△57,415
小計	9,102,579	4,377,466
法人税等の支払額	△65,627	△191,397
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,036,952	4,186,068

(単位：百万円)

区分	2017年度 自 2017年4月1日 至 2018年3月31日	2018年度 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△23,745,816	△26,550,624
有価証券の売却による収入	13,506,844	17,941,452
有価証券の償還による収入	8,361,531	10,080,463
金銭の信託の増加による支出	△0	△0
金銭の信託の減少による収入	0	0
有形固定資産の取得による支出	△153,916	△72,843
有形固定資産の売却による収入	4,736	7,143
無形固定資産の取得による支出	△88,558	△87,527
無形固定資産の売却による収入	3	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△161,851	△57,182 ※2
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	△851,071	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,128,097	1,260,881
財務活動によるキャッシュ・フロー		
劣後特約付借入れによる収入	750,000	—
劣後特約付借入金の返済による支出	△10,000	△8,000
劣後特約付社債及び新株予約権付社債の償還による支出	△180,000	△23,499
配当金の支払額	△223,334	△325,332
非支配株主への払戻による支出	△135,000	△212,537
非支配株主への配当金の支払額	△39,620	△51,257
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△6	—
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の売却による収入	0	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	162,039	△620,628
現金及び現金同等物に係る換算差額	△93,794	165,536
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	5,977,099	4,991,857
現金及び現金同等物の期首残高	41,111,133	47,088,226
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	△7	—
現金及び現金同等物の期末残高	47,088,226	52,080,083 ※1

(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社 114社

主要な会社名

株式会社SMBC信託銀行
Sumitomo Mitsui Banking Corporation Europe Limited
三井住友銀行(中国)有限公司
PT Bank BTPN Tbk
SMBC Americas Holdings, Inc
SMBC信用保証株式会社

PT Bank BTPN Tbk 他11社は株式の取得等により、当連結会計年度より連結子会社としております。

また、7社は清算等により子会社でなくなったため、当連結会計年度より連結子会社から除外しております。

(2) 非連結子会社

該当ありません。

2. 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法適用の非連結子会社

該当ありません。

SBCS Co.,Ltd.他4社は、同社株式を当行の親会社である株式会社三井住友フィナンシャルグループに現物配当したこと等により子会社でなくなったため、当連結会計年度より持分法適用の非連結子会社から除外しております。

(2) 持分法適用の関連会社 73社

主要な会社名

株式会社関西みらいフィナンシャルグループ
株式会社関西みらいフィナンシャルグループは、当行の持分法適用の関連会社である株式会社みなど銀行及び株式会社関西アーバン銀行との株式交換により、その他11社は新規設立等により、当連結会計年度より持分法適用の関連会社としております。

また、PT Bank BTPN Tbk 他9社は株式の取得により子会社となったこと等により、当連結会計年度より持分法適用の関連会社から除外しております。

(3) 持分法非適用の非連結子会社

該当ありません。

(4) 持分法非適用の関連会社

主要な会社名

Park Square Capital / SMBC Loan Programme S.à r.l.
持分法非適用の関連会社の当期純損益(持分に見合う額)及び利益剰余金(持分に見合う額)等のそれぞれの合計額は、持分法適用の対象から除いても企業集団の財政状態及び経営成績に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものであります。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

(1) 連結子会社の決算日は次のとおりであります。

10月末日	2社
12月末日	67社
1月末日	2社
3月末日	43社

(2) 10月末日を決算日とする連結子会社は1月末日現在、1月末日及び一部の12月末日を決算日とする連結子会社については3月末日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表により、また、その他の連結子会社については、それぞれの決算日の財務諸表により連結しております。

連結決算日と上記の決算日等との間に生じた重要な取引については、必要な調整を行っております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 特定取引資産・負債の評価基準及び収益・費用の計上基準

金利、通貨の価格、金融商品市場における相場その他の指標に係る短期的な変動、市場間の格差等を利用して利益を得る等の目的(以下、「特定取引目的」という)の取引については、取引の約定時点を基準とし、連結貸借対照表上「特定取引資産」及び「特定取引負債」に計上するとともに、当該取引からの損益を連結損益計算書上「特定取引収益」及び「特定取引費用」に計上しております。

特定取引資産及び特定取引負債の評価は、有価証券及び金銭債権等については連結決算日等の時価により、スワップ・先物・オプション取引等の派生商品については連結決算日等において決済したものとみなした額により行っております。

また、特定取引収益及び特定取引費用の損益計上は、当連結会計年度中の受払利息等に、有価証券及び金銭債権等については前連結会計年度末と当連結会計年度末における評価損益の増減額を、派生商品については前連結会計年度末と当連結会計年度末におけるみなし決済からの損益相当額の増減額を加えております。

(2) 有価証券の評価基準及び評価方法

① 有価証券の評価は、満期保有目的の債券については移動平均法による償却原価法(定額法)、持分法非適用の関連会社株式については移動平均法による原価法、その他有価証券のうち株式(外国株式を含む)については当連結会計年度末前1カ月の市場価格の平均等、それ以外については当連結会計年度末日の市場価格等に基づく時価法(売却原価は主として移動平均法により算定)、ただし時価を把握することが極めて困難と認められるものについては移動平均法による原価法により行っております。

なお、その他有価証券の評価差額については、時価ヘッジの適用により損益に反映させた額を除き、全部純資産直入法により処理しております。

② 金銭の信託において信託財産を構成している有価証券の評価は、上記(1)及び(2)①と同じ方法により行っております。

(3) デリバティブ取引の評価基準及び評価方法

デリバティブ取引(特定取引目的の取引を除く)の評価は、時価法により行っております。

(4) 固定資産の減価償却の方法

① 有形固定資産(賃貸資産及びリース資産を除く)

当行の有形固定資産は、定額法(ただし、建物以外については定率法)を採用しております。

また、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	7年～50年
その他	2年～20年

連結子会社の有形固定資産については、資産の見積耐用年数に基づき、主として定額法により償却しております。

② 無形固定資産

無形固定資産は、定額法により償却しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、当行及び国内連結子会社における利用可能期間(5年～10年)に基づいて償却しております。

③ 賃貸資産

主にリース期間又は資産の見積耐用年数を償却年数とし、期間満了時の処分見積価額を残存価額とする定額法により償却しております。

④ リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係る「有形固定資産」中のリース資産は、リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法により償却しております。

(5)貸倒引当金の計上基準

当行及び主要な連結子会社の貸倒引当金は、予め定めている償却・引当基準に則り、次のとおり計上しております。

破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している債務者(以下、「破綻先」という)に係る債権及びそれと同等の状況にある債務者(以下、「実質破綻先」という)に係る債権については、以下のなお書きに記載されている直接減額後の帳簿価額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額を計上しております。また、現在は経営破綻の状況にないが、今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる債務者(以下、「破綻懸念先」という)に係る債権については、債権額から、担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額を控除し、その残額のうち、債務者の支払能力を総合的に判断し必要と認める額を計上しております。

当行においては、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もることができる破綻懸念先に係る債権及び債権の全部又は一部が3カ月以上延滞債権又は貸出条件緩和債権に分類された今後の管理に注意を要する債務者に対する債権のうち与信額一定額以上の大口債務者に係る債権等については、キャッシュ・フロー見積法(DCF法)を適用し、債権の元本の回収及び利息の受取りに係るキャッシュ・フローを合理的に見積もり、当該キャッシュ・フローを当初の約定利率で割り引いた金額と債権の帳簿価額との差額を計上しております。

上記以外の債権については、過去の一定期間における貸倒実績等から算出した貸倒実績率等に基づき計上しております。特定海外債権については、対象国の政治経済情勢等を勘案して必要と認められる金額を特定海外債権引当勘定として計上しております。

すべての債権は、資産の自己査定基準に基づき、営業部店と所管審査部が資産査定を実施し、当該部署から独立した資産監査部署が査定結果を監査しております。

その他の連結子会社の貸倒引当金は、一般債権については過去の貸倒実績率等を勘案して必要と認められた額を、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額をそれぞれ計上しております。

なお、破綻先及び実質破綻先に対する担保・保証付債権等については、債権額から担保の評価額及び保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額しており、その金額は106,754百万円であります。

(6)賞与引当金の計上基準

賞与引当金は、従業員への賞与の支払いに備えるため、従業員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(7)役員賞与引当金の計上基準

役員賞与引当金は、役員(執行役員を含む、以下同じ)への賞与の支払いに備えるため、役員に対する賞与の支給見込額のうち、当連結会計年度に帰属する額を計上しております。

(8)役員退職慰労引当金の計上基準

役員退職慰労引当金は、役員に対する退職慰労金の支払いに備えるため、内規に基づく当連結会計年度末の要支給額を計上しております。

(9)ポイント引当金の計上基準

ポイント引当金は、「SMBCポイントパック」におけるポイントの将来の利用による負担に備えるため、未利用の付与済ポイントを金額に換算した残高のうち、将来利用される見込額を合理的に見積もり、必要と認める額を計上しております。

(10)睡眠預金払戻損失引当金の計上基準

睡眠預金払戻損失引当金は、一定の条件を満たし負債計上を中止した預金について、預金者からの払戻請求に備えるため、過去の払戻実績に基づく将来の払戻損失見込額を計上しております。

(11)退職給付に係る会計処理の方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、主として給付算定式基準によっております。また、過去勤務費用及び数理計算上の差異の損益処理方法は次のとおりであります。

過去勤務費用

その発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として9年)による定額法により損益処理

数理計算上の差異

各連結会計年度の発生時の従業員の平均残存勤務期間内の一定の年数(主として9年)による定額法により按分した額をそれぞれ発生翌連結会計年度から損益処理

(12)外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

当行の外貨建資産・負債及び海外支店勘定については、取得時の為替相場による円換算額を付す子会社株式及び関連会社株式を除き、主として連結決算日の為替相場による円換算額を付しております。

また、連結子会社の外貨建資産・負債については、それぞれの決算日等の為替相場により換算しております。

(13)リース取引等に関する収益及び費用の計上基準**①ファイナンス・リース取引に係る収益の計上基準**

受取利息相当額を収益として各期に配分する方法によっております。

②オペレーティング・リース取引の収益の計上基準

主に、リース期間に基づくリース契約上の収受すべき月当たりのリース料を基準として、その経過期間に対応するリース料を計上しております。

③割賦販売取引の売上高及び売上原価の計上基準

主に、割賦契約による支払期日を基準として当該経過期間に対応する割賦売上高及び割賦原価を計上しております。

(14)重要なヘッジ会計の方法**①金利リスク・ヘッジ**

当行は、金融資産・負債から生じる金利リスクのヘッジ取引に対するヘッジ会計の方法として、繰延ヘッジを適用しております。

小口多数の金銭債権債務に対する包括ヘッジについては、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日。以下、「業種別監査委員会報告第24号」という)に規定する繰延ヘッジを適用しております。相場変動を相殺する包括ヘッジの場合には、ヘッジ対象となる預金・貸出金等とヘッジ手段である金利スワップ取引等を残存期間ごとにグルーピングのうえ有効性の評価をしております。また、キャッシュ・フローを固定する包括ヘッジの場合には、ヘッジ対象とヘッジ手段の金利変動要素の相関関係の検証により有効性の評価をしております。

個別ヘッジについても、当該個別ヘッジに係る有効性の評価をしております。

②為替変動リスク・ヘッジ

当行は、異なる通貨での資金調達・運用を動機として行われる通貨スワップ取引及び為替スワップ取引について、「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日。以下、「業種別監査委員会報告第25号」という)に基づく繰延ヘッジを適用しております。

これは、異なる通貨での資金調達・運用に伴う外貨建金銭債権債務等の為替変動リスクを減殺する目的で行う通貨スワップ取引及び為替スワップ取引について、その外貨ポジションに見合う外貨建金銭債権債務等が存在することを確認することによりヘッジの有効性を評価するものであります。

また、外貨建子会社株式及び関連会社株式並びに外貨建その他有価証券(債券以外)の為替変動リスクをヘッジするため、事前にヘッジ対象となる外貨建有価証券の銘柄を特定し、当該外貨建有価証券について外貨ベースで取得原価以上の直先負債が存在していること等を条件に、包括ヘッジとして繰延ヘッジ又は時価ヘッジを適用しております。

③株価変動リスク・ヘッジ

当行は、その他有価証券から生じる株価変動リスクを相殺する個別ヘッジについては時価ヘッジを適用しており、当該個別ヘッジに係る有効性の評価をしております。

④連結会社間取引等

デリバティブ取引のうち連結会社間及び特定取引勘定とそれ以外の勘定との間(又は内部部門間)の内部取引については、ヘッジ手段として指定している金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等に対して、業種別監査委員会報告第24号及び同第25号に基づき、恣意性を排除し厳格なヘッジ運営が可能と認められる対外カバー取引の基準に準拠した運営を行っているため、当該金利スワップ取引及び通貨スワップ取引等から生じる収益及び費用は消去せずに損益認識又は繰延処理を行っております。

なお、一部の連結子会社において、繰延ヘッジ又は時価ヘッジあるいは金利スワップの特例処理を適用しております。

(15)のれんの償却方法及び償却期間

のれんは、20年以内のその効果の発現する期間にわたり均等償却しております。ただし、金額に重要性の乏しいものについては発生年度に全額償却しております。

(16)連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲は、現金、無利息預け金及び日本銀行への預け金であります。

(17)消費税等の会計処理

当行及び国内連結子会社の消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。

(18)連結納税制度の適用

当行及び一部の国内連結子会社は、株式会社三井住友フィナンシャルグループを連結納税親会社とする連結納税制度を適用しております。

<未適用の会計基準等>

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等(平成30年3月30日)

(1)概要

当会計基準等は、国際的な動向を踏まえて定められた収益認識に関する包括的な会計基準等であり、約束した財又はサービスの顧客への移転を、当該財又はサービスと交換に企業が権利を得ると見込む対価の額で描写するように、収益を認識することを原則としております。

(2)適用予定日

適用時期は未定であります。

(3)当該会計基準等の適用による影響

当該会計基準等の適用による影響は、評価中であります。

(連結貸借対照表関係)

- ※1. 非連結子会社及び関連会社の株式又は出資金の総額
 株式 572,219百万円
 出資金 6,368百万円
 なお、関連会社の株式のうち共同支配企業に対する投資の金額は次のとおりであります。
 8,451百万円
- ※2. 無担保の消費貸借契約により貸し付けている有価証券の金額は次のとおりであります。
 「有価証券」中の国債 902百万円
 無担保の消費貸借契約により借り入れている有価証券並びに現先取引及び現金担保付債券貸借取引等により受け入れている有価証券のうち、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有する有価証券で、(再)担保に差し入れている有価証券、再貸付けに供している有価証券及び当連結会計年度末に当該処分をせずに所有している有価証券は次のとおりであります。
 (再)担保に差し入れている有価証券 5,407,352百万円
 再貸付けに供している有価証券 7,806百万円
 当連結会計年度末に当該処分をせずに所有している有価証券 1,327,943百万円
- ※3. 貸出金のうち破綻先債権額及び延滞債権額は次のとおりであります。
 破綻先債権額 12,801百万円
 延滞債権額 409,516百万円
 なお、破綻先債権とは、元本又は利息の支払の遅延が相当期間継続していることその他の事由により元本又は利息の取立て又は弁済の見込みがないものとして未収利息を計上しなかった貸出金(貸倒償却を行った部分を除く。以下、「未収利息不計上貸出金」という)のうち、法人税法施行令(昭和40年政令第97号)第96条第1項第3号イからホまでに掲げる事由又は同項第4号に規定する事由が生じている貸出金であります。
 また、延滞債権とは、未収利息不計上貸出金であって、破綻先債権及び債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として利息の支払を猶予した貸出金以外の貸出金であります。
- ※4. 貸出金のうち3カ月以上延滞債権額は次のとおりであります。
 3カ月以上延滞債権額 6,447百万円
 なお、3カ月以上延滞債権とは、元本又は利息の支払が約定支払日の翌日から3カ月以上遅延している貸出金で破綻先債権及び延滞債権に該当しないものであります。
- ※5. 貸出金のうち貸出条件緩和債権額は次のとおりであります。
 貸出条件緩和債権額 115,668百万円
 なお、貸出条件緩和債権とは、債務者の経営再建又は支援を図ることを目的として、金利の減免、利息の支払猶予、元本の返済猶予、債権放棄その他の債務者に有利となる取決めを行った貸出金で破綻先債権、延滞債権及び3カ月以上延滞債権に該当しないものであります。
- ※6. 破綻先債権額、延滞債権額、3カ月以上延滞債権額及び貸出条件緩和債権額の合計額は次のとおりであります。
 合計額 544,433百万円
 なお、上記3.から6.に掲げた債権額は、貸倒引当金控除前の金額であります。
- ※7. 手形割引は、「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)に基づき金融取引として処理しております。これにより受け入れた銀行引受手形、商業手形、荷付為替手形及び買入外国為替等は、売却又は(再)担保という方法で自由に処分できる権利を有しておりますが、その額面金額は次のとおりであります。
 906,636百万円

- ※8. 担保に供している資産は次のとおりであります。

担保に供している資産	
現金預け金	7,353百万円
買入金銭債権	11,459百万円
特定取引資産	43,997百万円
有価証券	6,336,774百万円
貸出金	9,086,500百万円
担保資産に対応する債務	
預金	26,089百万円
売現先勘定	5,431,269百万円
債券貸借取引受入担保金	680,051百万円
借入金	7,922,955百万円
信託勘定借	124,550百万円
支払承諾	167,027百万円

上記のほか、資金決済等の取引の担保あるいは先物取引証拠金等の代用として、次のものを差し入れております。

現金預け金	41,584百万円
特定取引資産	9,752百万円
有価証券	4,813,152百万円
貸出金	853,603百万円

また、その他資産には、金融商品等差入担保金、保証金、先物取引差入証拠金及びその他の証拠金等が含まれておりますが、その金額は次のとおりであります。

金融商品等差入担保金	1,473,638百万円
保証金	60,524百万円
先物取引差入証拠金	5,494百万円
その他の証拠金等	1,609百万円

- ※9. 当座貸越契約及び貸付金に係るコミットメントライン契約は、顧客からの融資実行の申し出を受けた場合に、契約上規定された条件について違反がない限り、一定の限度額まで資金を貸し付けることを約する契約であります。これらの契約に係る融資未実行残高は次のとおりであります。

融資未実行残高	58,687,563百万円
うち原契約期間が1年以内のもの又は任意の時期に無条件で取消可能なもの	40,287,718百万円

なお、これらの契約の多くは、融資実行されずに終了するものであるため、融資未実行残高そのものが必ずしも将来のキャッシュ・フローに影響を与えるものではありません。これらの契約の多くには、金融情勢の変化、債権の保全及びその他相当の事由があるときは、実行申し込みを受けた融資の拒絶又は契約極度額の減額をすることができる旨の条項が付けられております。また、契約時において必要に応じて不動産・有価証券等の担保を徴求するほか、契約後も定期的に予め定めている社内手続に基づき顧客の業況等を把握し、必要に応じて契約の見直し、与信保全上の措置等を講じております。

- ※10. 当行は、「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成13年3月31日公布法律第19号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額のうち親会社持分相当額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。
- また、一部の持分法適用の関連会社も同法律に基づき事業用の土地の再評価を行い、評価差額については、当該評価差額に係る税金相当額を控除した金額のうち親会社持分相当額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。
- 再評価を行った年月日
- | | |
|---------------|------------------------|
| 当行 | 1998年3月31日及び2002年3月31日 |
| 一部の持分法適用の関連会社 | 1999年3月31日、2002年3月31日 |

同法律第3条第3項に定める再評価の方法
 当行

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日
 日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税
 評価額、同条第4号に定める路線価及び同条第5号に定
 める不動産鑑定士又は不動産鑑定士補による鑑定評価
 に基づいて、奥行価格補正、時点修正、近隣売買事例
 による補正等、合理的な調整を行って算出。

一部の持分法適用の関連会社

「土地の再評価に関する法律施行令」(平成10年3月31日
 日公布政令第119号)第2条第3号に定める固定資産税
 評価額及び同条第5号に定める不動産鑑定士又は不動
 産鑑定士補による鑑定評価に基づいて算出。

※11. 有形固定資産の減価償却累計額	621,954百万円
※12. 有形固定資産の圧縮記帳額	
圧縮記帳額	62,127百万円
(当該連結会計年度の圧縮記帳額	一百万円)
※13. 借入金には、劣後特約付借入金が含まれております。	
劣後特約付借入金	6,466,343百万円
※14. 社債には、劣後特約付社債が含まれております。	
劣後特約付社債	647,719百万円
※15. 信託勘定借には、信託勘定が発行する債権担保付社債(カバード ボンド)に関連した信託勘定からの借入金が含まれておりま す。	
債権担保付社債(カバードボンド)に 関連した信託勘定からの借入金	124,550百万円
※16. 「有価証券」中の社債のうち、有価証券の私募(金融商品取引法 第2条第3項)による社債に対する保証債務の額	1,676,541百万円
17. 元本補填契約のある信託の元本金額は、次のとおりでありま す。	
金銭信託	17,150百万円

(連結損益計算書関係)

- ※1. その他の経常収益には、次のものを含んでおります。
 株式等売却益 113,293百万円
- ※2. 営業経費には、次のものを含んでおります。
 給料・手当 411,188百万円
 減価償却費 115,913百万円
- ※3. その他経常費用には、次のものを含んでおります。
 債権売却損 20,274百万円
- ※4. 当連結会計年度のその他の特別利益は、段階取得に係る差益
 であります。
- ※5. 以下の資産について、回収可能価額と帳簿価額との差額を減
 損損失として特別損失に計上しております。

(単位：百万円)

地域	主な用途	種類	減損損失額
首都圏	営業用店舗 14ヵ店	土地、建物等	205
	遊休資産 54物件		1,661
近畿圏	営業用店舗 7ヵ店	土地、建物等	77
	遊休資産 33物件		1,850
その他	営業用店舗 2ヵ店	土地、建物等	258
	遊休資産 14物件		519

当行は、継続的な収支の管理・把握を実施している各営業拠
 点(物理的に同一の資産を共有する拠点)をグループの最
 小単位としております。本店、研修所、事務・システムの集
 中センター、福利厚生施設等の独立したキャッシュ・フロ
 を生み出さない資産は共用資産としております。また、遊休
 資産については、物件ごとにグループの単位としており
 ます。また、連結子会社については、各営業拠点をグル
 ープの最小単位とする等の方法でグループを行って
 おります。

投資額の回収が見込まれない遊休資産等について、帳簿価
 額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として
 特別損失に計上しております。

回収可能価額は、主として正味売却価額により算出して
 おります。正味売却価額は、不動産鑑定評価基準に準拠した
 評価額から処分費用見込額を控除する等により算出して
 おります。

(連結包括利益計算書関係)

※1. その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

(単位：百万円)

その他有価証券評価差額金：	
当期発生額	37,379
組替調整額	△140,202
税効果調整前	△102,822
税効果額	24,539
その他有価証券評価差額金	△78,282
繰延ヘッジ損益：	
当期発生額	847
組替調整額	37,706
税効果調整前	38,553
税効果額	△10,881
繰延ヘッジ損益	27,672
為替換算調整勘定：	
当期発生額	12,372
組替調整額	310
税効果調整前	12,682
税効果額	—
為替換算調整勘定	12,682
退職給付に係る調整額：	
当期発生額	△81,298
組替調整額	△15,457
税効果調整前	△96,756
税効果額	29,643
退職給付に係る調整額	△67,113
持分法適用会社に対する持分相当額：	
当期発生額	△35,625
組替調整額	19,926
税効果調整前	△15,698
税効果額	—
持分法適用会社に対する持分相当額	△15,698
その他の包括利益合計	△120,740

(連結株主資本等変動計算書関係)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに
 自己株式の種類及び株式数に関する事項

(単位：株)

	当連結 会計年度 期首株式数	当連結 会計年度 増加株式数	当連結 会計年度 減少株式数	当連結 会計年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	106,248,400	—	—	106,248,400
第1回第六種優先株式	70,001	—	—	70,001
合計	106,318,401	—	—	106,318,401
自己株式				
第1回第六種優先株式	70,001	—	—	70,001
合計	70,001	—	—	70,001

2. 新株予約権に関する事項

(単位：株、百万円)

区分	新株予約 権の内訳	新株予約 権の目的 となる株 式の種類	新株予約権の目的となる株式の数				当連結 会計年度 末残高	摘要
			当連結会計 年度期首	当連結会計 年度増加	当連結会計 年度減少	当連結会計 年度末		
連結 子会社	—	—	—	—	—	2,210		
合計						2,210		

3. 配当に関する事項

(1)当連結会計年度中の金銭による配当金支払額

株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
普通株式	126,541	1,191

※決議：2018年6月28日 定時株主総会
 基準日：2018年3月31日
 効力発生日：2018年6月29日

株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
普通株式	198,790	1,871

※決議：2018年11月13日 取締役会
 基準日：2018年9月30日
 効力発生日：2018年11月26日

(2)当連結会計年度中の金銭以外による配当金支払額

株式の種類	配当財産の帳簿価額(百万円)	1株当たり配当額(円)
普通株式	4,059	38

※決議：2018年7月30日 臨時株主総会
 配当財産の種類：子会社株式
 効力発生日：2018年7月30日

(注)1株当たり配当額は、配当財産の帳簿価額を発行済株式総数で除して算出しております。

(3)基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

株式の種類	配当金の総額(百万円)	1株当たり配当額(円)
普通株式	150,128	1,413

※決議：2019年6月27日 定時株主総会
 配当の原資：利益剰余金
 基準日：2019年3月31日
 効力発生日：2019年6月28日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- ※1. 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係
- | | |
|--------------------|---------------|
| 現金預け金勘定 | 55,747,048百万円 |
| 日本銀行への預け金を除く有利息預け金 | △3,666,964百万円 |
| 現金及び現金同等物 | 52,080,083百万円 |

- ※2. 株式の取得等により新たに連結子会社となった会社の資産及び負債の主な内訳
- 当行による株式取得により、新たにPT Bank Tabungan Pensiunan Nasional Tbk(以下、「B T P N」)他1社を連結したことに伴う連結開始時の資産及び負債の主な内訳並びに株式の取得価額と取得のための支出との関係は次のとおりであります。

	(単位：百万円)
資産	837,523
(うち貸出金)	522,918)
負債	△643,346
(うち預金)	△538,529)
為替換算調整勘定	5,049
新株予約権	△2,141
非支配株主持分	△12,402
のれん	4,707
上記2社持分の取得価額	189,390
上記2社現金及び現金同等物	△54,182
企業結合直前に所有していたB T P Nの普通株式の時価	△78,025
差引：上記2社取得のための支出	57,182

(リース取引関係)

1.ファイナンス・リース取引

(1)借手側

- ①リース資産の内容
- (ア)有形固定資産
 主として、店舗及び事務システム機器等であります。
- (イ)無形固定資産
 ソフトウェアであります。
- ②リース資産の減価償却の方法
 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「4.会計方針に関する事項」の「(4)固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(2)貸手側

①リース投資資産の内訳

	(単位：百万円)
リース料債権部分	269,214
見積残存価額部分	65,094
受取利息相当額	△86,474
合計	247,835

②リース投資資産に係るリース料債権部分の金額の回収予定額
 (単位：百万円)

1年以内	43,411
1年超2年以内	24,003
2年超3年以内	21,214
3年超4年以内	20,682
4年超5年以内	13,813
5年超	146,089
合計	269,214

2.オペレーティング・リース取引

(1)借手側

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	(単位：百万円)
1年内	31,866
1年超	202,650
合計	234,516

(2)貸手側

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	(単位：百万円)
1年内	35,538
1年超	83,426
合計	118,965

(金融商品関係)**1.金融商品の状況に関する事項****(1)金融商品に対する取組方針**

当行グループでは、銀行業務を中心とした金融サービスに係る事業を行っております。うち、銀行業務としては、預金業務、貸出業務、商品有価証券売買業務、有価証券投資業務、内国為替業務、外国為替業務、社債受託及び登録業務、信託業務、証券投資信託・保険商品の窓口販売業務等を行っております。

当行グループでは、これらの事業において、貸出金、債券、株式等の金融資産を保有するほか、預金、借入金、社債等による資金調達を行っております。また、顧客のヘッジニーズに対応する目的のほか、預貸金業務等に係る市場リスクをコントロールする目的(以下、「ALM目的」)や、金利・通貨等の相場の短期的な変動を利用して利益を得る目的(以下、「トレーディング目的」)で、デリバティブ取引を行っております。なお、当行では、ALM目的の取引は市場資金部及び市場運用部、トレーディング目的の取引は市場営業部(アジア・大洋州地域においてはALM目的・トレーディング目的共にアジア・大洋州トレジャリー部)が行っております。

(2)金融商品の内容及びそのリスク**①金融資産**

当行グループが保有する主な金融資産は、国内外の法人向けや国内の個人向けの貸出金及び国債や社債等の債券や国内外の株式等の有価証券であります。国債等の債券につきましては、ALM目的のほか、トレーディング目的、満期保有目的等で保有しております。また、株式につきましては、政策投資を主な目的として保有しております。これらは、それぞれ貸出先、発行体の財務状況の悪化等に起因して当該資産の価値が減少・滅失する信用リスクや金利、為替、株価等の相場が変動することにより損失を被る市場リスク、市場の流動性の低下により適正な価格で希望する量の取引が困難となる市場流動性リスクに晒されております。これらのリスクにつきましては、後記の「(3)金融商品に係るリスク管理体制」で記載のとおり、適切に管理、運営しております。

②金融負債

当行グループが負う金融負債には、預金のほか、借入金、社債等が含まれます。預金は、主として国内外の法人と国内の個人預金であり、借入金及び社債には、他の債務よりも債務の履行が後順位である旨の特約が付された劣後特約付借入金や劣後特約付社債が含まれております。金融負債についても、金融資産と同様に、市場リスクのほか、市場の混乱や信用力の低下等により資金の調達が困難となる資金流動性リスクに晒されております。これらのリスクにつきましては、後記の「(3)金融商品に係るリスク管理体制」で記載のとおり、適切に管理、運営しております。

③デリバティブ取引

当行グループで取り扱っているデリバティブ取引には、先物・外国為替取引、金利、通貨、株式、債券、商品に係る先物取引、先渡取引、スワップ取引、オプション取引及びクレジットデリバティブ取引、天候デリバティブ取引等があります。デリバティブ取引に係る主要なリスクとしては、市場リスク、取引相手の財務状況の悪化等により契約が履行されなくなり損失を被る信用リスク、市場流動性リスク等があります。これらのリスクにつきましては、後記の「(3)金融商品に係るリスク管理体制」で記載のとおり、適切に管理、運営しております。

なお、ALM目的で取り組むデリバティブ取引につきましては、必要に応じてヘッジ会計を適用しておりますが、当該ヘッジ会計に関するヘッジ手段、ヘッジ対象、ヘッジ方針及びヘッジの有効性の評価方法等につきましては、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項 4.会計方針に関する事項 (14)重要なヘッジ会計の方法」に記載しております。

(3)金融商品に係るリスク管理体制

当行は、グループ全体のリスク管理に関する基本的事項を「統合リスク管理規程」として制定しております。同規程に基づき、経営会議が「グループ全体のリスク管理の基本方針」を決定し、取締役会の承認を得る体制としており、グループ各社においては、この基本方針に基づき、業務の特性に応じたリスク管理体制を構築しております。

①信用リスクの管理

当行においては、グループ各社がその業務特性に応じた信用リスクを統合的に管理すること、個別与信や与信ポートフォリオ全体の信用リスクを定量的かつ経常的に管理することなどに関する基本原則を定め、グループ全体の信用リスク管理の徹底を図っております。

(イ)信用リスクの管理体制

当行では、信用リスク管理の基本方針等の重要な事項につきましては、経営会議で決定のうえ、取締役会の承認を得る体制としております。

リスク管理部門の投融資企画部が、クレジットポリシー、行内格付制度、与信権限規程、稟議規程の制定及び改廃、不良債権管理を含めた与信ポートフォリオの管理等、信用リスクの管理・運営を統括するとともに、リスク統括部と協働して、信用リスクの計量化(リスク資本、リスクアセットの算定)を行い、銀行全体の信用リスク量の管理を行っております。

また、投融資企画部の部内室のCPM室では、クレジットデリバティブや貸出債権の売却等を通じて与信ポートフォリオの安定化に努めております。

業務部門においては、各部門内の所管審査部が中心となって、与信案件の審査、与信ポートフォリオの管理等を行っております。与信の実行権限は、与信先の格付別の金額基準をベースとした体系とし、信用リスクの程度が大きい与信先・与信案件については審査部で重点的に審査・管理を行っております。また、融資管理部が、主に破綻懸念先以下に区分された与信先に対する債権の圧縮のための方策の立案、実施に努めているほか、企業調査部が、産業・業界に関する調査や個別企業の調査等を通じて主要与信先の実態把握や信用悪化懸念先の早期発見に努めております。

更に、機動的かつ適切なリスクコントロール並びに与信運営上の健全なガバナンス体制確保を目的とする協議機関として、各部門を横断する「信用リスク委員会」を設置しております。

なお、各部門から独立した監査部門が、定期的に、資産内容の健全性、格付・自己査定 of 正確性、信用リスク管理体制の適切性についての内部監査を行い、経営会議や取締役会等に監査結果の報告を行っております。

(ロ)信用リスクの管理方法

当行では、個別与信あるいは与信ポートフォリオ全体のリスクを適切に管理するため、行内格付制度により、与信先あるいは与信案件ごとの信用リスクを適切に評価するとともに、信用リスクの計量化を行うことで、信用リスクを定量的に把握、管理しております。また、融資審査や債務者モニタリングによる個別与信の管理に加え、与信ポートフォリオの健全性と収益性の中期的な維持・改善を図るため、次のとおり適切な信用リスクの管理を行っております。

・自己資本の範囲内での適切なリスクコントロール
信用リスクを自己資本対比許容可能な範囲内に収めるため、内部管理上の信用リスク資本の限度枠として「信用リスク資本極度」を設定しております。その極度に基づき、業務部門別にガイドラインを設定し、定期的にその遵守状況をモニタリングしております。

- ・集中リスクの抑制
与信集中リスクは、顕在化した場合に銀行の自己資本を大きく毀損させる可能性があることから、特定の業種に過度の信用リスクが集中しないように管理を行うとともに、大口与信先に対する上限基準値の設定や重点的なローンレビューの実施等を行っております。また、各国の信用力の評価に基づき、国別の与信枠を設定し、カントリーリスクの管理を実施しております。
 - ・企業実態把握の強化とリスクに見合った収益の確保
企業実態をきめ細かく把握し、信用リスクに見合った適正な収益を確保することを与信業務の大原則とし、信用コスト、資本コスト及び経費控除後収益の改善に取り組んでおります。
 - ・問題債権の発生抑制・圧縮
問題債権や今後問題が顕在化する懸念のある債権につきましては、ローンレビュー等により対応方針やアクションプランを明確化したうえで、劣化防止・正常化の支援、回収・保全強化策の実施等、早期の対応に努めております。
なお、一部のファンドに対する出資や証券化商品、クレジットデリバティブ等、間接的に社債や貸付債権等の資産(裏付資産)のリスクを保有する商品は、市場で売買されることから、裏付資産の信用リスクとともに市場リスク・市場流動性リスクを併せ持つ商品であると認識しております。こうした商品に関しては、裏付資産の特性を詳細に分析・評価して信用リスクの管理を行う一方、当該商品の市場リスク等につきましては、市場リスク・流動性リスク管理の体制の中で、網羅的に管理しております。また、それぞれのリスク特性に応じ各種ガイドラインを設定し、損失を被るリスクを適切に管理しております。
デリバティブ取引の信用リスクにつきましては、時価に基づく信用リスク額を定期的に算出し、適切に管理しております。取引の相手方が取引を頻繁に行う金融機関である場合には、倒産等により取引相手が決済不能となった場合に各種の債権債務を一括清算することが可能となる一括清算ネットリング契約を締結するなど、信用リスクを抑制する運営を行っております。
- ②市場リスク・流動性リスクの管理
当行においては、リスク許容量の上限を設定し定量的な管理をすること、リスク管理プロセスに透明性を確保すること、フロント、ミドル、バックの組織的な分離を行い、実効性の高い相互牽制機能を確保することなどを基本原則として、グループ全体の市場リスク・流動性リスク管理を行っております。
- (イ)市場リスク・流動性リスクの管理体制
当行では、市場リスク・流動性リスク管理の基本方針、リスク管理枠等の重要な事項につきましては、経営会議で決定のうえ、取締役会の承認を得る体制としております。
また、市場取引を行う業務部門から独立した前記のリスク統括部が市場リスク・流動性リスクを一元管理する体制を構築しております。同部は、リスク状況をモニターするとともに、定期的に経営会議や取締役会等に報告を行っております。
更に、月次でALM委員会を開催し、市場リスク・流動性リスクの枠の遵守状況の報告及びALM運営方針の審議等を行っております。
なお、各部門から独立した監査部門が、定期的に、これらのリスク管理体制の適切性についての内部監査を行い、経営会議や取締役会等に監査結果の報告を行っております。

(ロ)市場リスク・流動性リスクの管理方法

- ・市場リスクの管理
当行では、市場取引に関する業務運営方針等に基づき、自己資本等を勘案して定める「リスク資本極度」の範囲内で、「VaR(バリュー・アット・リスク：対象金融商品が、ある一定の確率の下で被る可能性がある予想最大損失額)」や損失額の上限値を設定し、市場リスクを管理しております。
なお、当行では、VaRの計測にヒストリカル・シミュレーション法(過去のデータに基づいた市場変動のシナリオを作成して損益変動シミュレーションを行うことにより最大損失額を推定する手法)を採用しております。バンキング業務(貸出金・債券等の資産、預金等の負債に係る金利・期間等のコントロールを通じて利益を得る市場業務)及びトレーディング業務(市場価格の短期的な変動や市場間の格差等を利用して利益を得る市場業務)につきましては、4年間のデータに基づき、1日の相場変動によって1%の確率で起こり得る最大損失額を算出しております。政策投資株式(上場銘柄等)の保有につきましては、10年間のデータに基づき、1年の相場変動によって1%の確率で起こり得る最大損失額を算出しております。
また、為替変動リスク、金利変動リスク、株価変動リスク、オプションリスクなど市場リスクの各要素につきましては、「BPV(ベース・ポイント・バリュー：金利が0.01%変化したときの時価評価変化額)」など、各要素のリスク管理に適した指標に対して上限値を設定し、管理しております。
 - ・市場リスクに係る定量的情報
当連結会計年度末日における当行及びその他の主要な連結子会社のVaRの合計値は、バンキング業務で439億円、トレーディング業務で66億円、政策投資株式(上場銘柄等)の保有で1兆63億円であります。
なお、これらの値は前提条件や算定方法等の変更によって異なる値となる統計的な値であり、将来の市場環境が過去の相場変動に比して激変するリスクを捕捉していない場合があります。
 - ・流動性リスクの管理
当行では、「リスクアパタイト指標の管理水準の設定」及び「コンティンジェンシープランの策定」の枠組みで資金流動性リスクを管理しております。リスクアパタイト指標とは、テイクするあるいは許容するリスクの種類を選定して、その水準を定量的に表した指標であり、指標の一つとして、預金流出等のストレス状況下においても資金繰りを維持することが可能な日数に下限を設定し、その指標に抵触しないように調達手段の確保に努めていくことで、短期的資金調達に過度に依存することを回避しております。加えて、緊急時に備えて指示・報告系統やアクションプランを取りまとめたコンティンジェンシープランを策定しております。
また、市場性商品やデリバティブ取引等に係る市場流動性リスクにつきましては、通貨・商品、取引期間等を特定した拠点別の取引限度額を設定するとともに、金融先物取引等につきましては、保有建玉を市場全体の未決済建玉残高の一定割合以内に限定するなどの管理を行っております。
- (4)金融商品の時価等に関する事項についての補足説明
金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には、合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては一定の前提条件等を採用しているため、異なる前提条件によった場合、当該価額が異なることもあります。

2.金融商品の時価等に関する事項

(1)2019年3月31日における連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額は、次のとおりであります。

なお、その他有価証券中の非上場株式等時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品((3)参照)や子会社株式及び関連会社株式は含めておりません。

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額	時価	差額
① 現金預け金 ^(注1)	55,740,391	55,750,156	9,765
② コールローン及び買入手形 ^(注1)	2,663,444	2,666,418	2,973
③ 買現先勘定	5,082,709	5,082,576	△133
④ 債券貸借取引支払保証金 ^(注1)	1,439,924	1,440,188	263
⑤ 買入金銭債権 ^(注1)	4,580,229	4,597,717	17,488
⑥ 特定取引資産			
売買目的有価証券	425,549	425,549	—
⑦ 金銭の信託	0	0	—
⑧ 有価証券			
満期保有目的の債券	280,247	281,136	888
その他有価証券	22,254,785	22,254,785	—
⑨ 貸出金	79,792,401		
貸倒引当金 ^(注1)	△241,503		
	79,550,898	81,214,995	1,664,097
⑩ 外国為替 ^(注1)	1,713,826	1,716,676	2,850
⑪ リース債権及びリース投資資産 ^(注1)	247,550	242,941	△4,609
資産計	173,979,557	175,673,142	1,693,585
① 預金	123,190,830	123,186,755	△4,074
② 譲渡性預金	11,335,486	11,340,627	5,140
③ コールマネー及び売渡手形	572,778	572,710	△68
④ 売現先勘定	8,743,386	8,743,386	—
⑤ 債券貸借取引受入担保金	680,051	680,051	—
⑥ コマーシャル・ペーパー	2,291,813	2,291,785	△27
⑦ 特定取引負債			
売付商品債券	125,086	125,086	—
⑧ 借入金	15,988,948	16,154,367	165,418
⑨ 外国為替	1,196,960	1,196,960	—
⑩ 社債	2,955,282	3,025,544	70,262
⑪ 信託勘定借	1,352,773	1,354,823	2,050
負債計	168,433,398	168,672,098	238,700
デリバティブ取引 ^(注2)			
ヘッジ会計が適用されていないもの	379,167	379,167	—
ヘッジ会計が適用されているもの	(45,298)	(45,298)	—
デリバティブ取引計	333,869	333,869	—

(注)1.貸出金に対応する一般貸倒引当金及び個別貸倒引当金を控除しております。なお、現金預け金、コールローン及び買入手形、債券貸借取引支払保証金、買入金銭債権、外国為替並びにリース債権及びリース投資資産に対する貸倒引当金につきましては、重要性が乏しいため、連結貸借対照表計上額から直接減額しております。

2.特定取引資産・負債及びその他資産・負債に計上しているデリバティブ取引を一括して表示しております。

なお、デリバティブ取引によって生じた正味の債権・債務は純額で表示しており、合計で正味の債務となる項目につきましては、()で表示しております。

(2)金融商品の時価の算定方法

資産

- ①現金預け金、②コールローン及び買入手形、③買現先勘定、④債券貸借取引支払保証金、⑤貸出金、⑩外国為替並びに⑪リース債権及びリース投資資産

これらの取引のうち、満期のない預け金や返済期限の定めのない当座貸越等につきましては、当該取引の特性により、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。

また、残存期間が6カ月以内の短期の取引についても、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、主として帳簿価額をもって時価としております。

残存期間が6カ月を超える取引につきましては、原則として、与信先の内部格付や担保設定状況等を勘案した将来キャッシュ・フローの見積額を、無リスク金利に一定の調整を加えたレートにて割り引いた現在価値をもって時価としております。一部の連結子会社においては、約定金利により算出した将来キャッシュ・フローの見積額を、無リスク金利に信用リスク・プレミアム等を勘案したレートにて割り引いた現在価値をもって時価としております。

なお、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等につきましては、貸倒見積高を担保の処分可能見込額及び保証による回収可能見込額、又は将来キャッシュ・フローの見積額の現在価値等に基づいて算定していることから、時価は連結貸借対照表計上額から貸倒見積高を控除した金額に近似しているため、当該価額をもって時価としております。

⑤買入金銭債権

買入金銭債権のうち、住宅ローン債権流動化に伴う劣後信託受益権につきましては、当該流動化に伴う信託における住宅ローン債権等の資産評価額から優先受益権等の評価額を差し引いた価額をもって時価としております。その他の取引につきましては、原則として⑨貸出金と同様の方法等により算定した価額をもって時価としております。

⑥特定取引資産

トレーディング目的で保有する債券等の有価証券につきましては、原則として当連結会計年度末日の市場価格をもって時価としております。

⑦金銭の信託

金銭の信託につきましては、原則として、信託財産である有価証券を⑧有価証券と同様の方法により算定した価額をもって時価としております。

⑧有価証券

原則として、株式(外国株式を含む)につきましては当連結会計年度末前1カ月の市場価格の平均をもって時価としております。公募債等、株式以外の市場価格のある有価証券につきましては、当連結会計年度末日の市場価格を基に算定した価額をもって時価としております。

変動利付国債につきましては、「金融資産の時価の算定に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第25号)を踏まえ、国債の利回り等から見積もった将来キャッシュ・フローを、同利回りに基づく割引率を用いて割引くことにより算定した価額をもって時価としており、国債の利回り及び同利回りのボラティリティ(変動性)が主な価格決定変数であります。市場価格のない私募債等につきましては、与信先の内部格付や担保設定状況等を勘案した将来キャッシュ・フローの見積額を、無リスク金利に一定の調整を加えたレートにて割引いた現在価値をもって時価としております。ただし、破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先の私募債等につきましては、貸出金と同様に、当該債券の帳簿価額から貸倒見積高を控除した金額をもって時価としております。また、公募投資信託につきましては公表されている基準価格、私募投資信託等につきましては証券会社等より入手する基準価格又は純資産価格より算定した価額をもって時価としております。

負債

①預金、②譲渡性預金及び⑩信託勘定債

要求払預金、満期のない預り金等につきましては、帳簿価額の時価とみなしております。また、残存期間が6カ月以内の短期の取引につきましては、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。残存期間が6カ月を超える取引につきましては、原則として、将来キャッシュ・フローの見積額を、新規に当該同種預金を残存期間まで受け入れる際に用いるレートで割引いた現在価値をもって時価としております。なお、信託勘定が発行する債権担保付社債(カバードボンド)に関連した信託勘定からの借入金につきましては、取引所の価格を基に算定した価額をもって時価としております。

③コールマネー及び売渡手形、④売現先勘定、⑤債券貸借取引受入担保金、⑥コマースナル・ペーパー、⑧借入金並びに⑩社債

残存期間が6カ月以内の短期の取引につきましては、時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。残存期間が6カ月を超える取引につきましては、原則として、将来キャッシュ・フローの見

積額を、市場における同種商品による残存期間までの再調達レートで割り引いた現在価値をもって時価としておりますが、一部商品につきましては、業界団体等より公表されている価格を基に算定した価額、または公表されている利回り情報等から算出した割引率によって割り引いた現在価値のいずれかをもって時価としております。

⑦特定取引負債

トレーディング目的で行う売付債券等につきましては、原則として、当該債券等の当連結会計年度末日の市場価格をもって時価としております。

⑨外国為替

他の銀行から受入れた外貨預り金等満期のない預り金につきましては、帳簿価額の時価とみなしております。

また、外国為替関連の短期借入金等の時価は帳簿価額に近似しているものと想定されるため、帳簿価額をもって時価としております。

デリバティブ取引

取引所取引につきましては、取引所等における最終の価格をもって時価としております。店頭取引のうち、金利・通貨・株式・債券及びクレジットデリバティブにつきましては、将来キャッシュ・フローの割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定した価額をもって時価としております。また、商品関連デリバティブ取引につきましては、取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定した価額をもって時価としております。

(3)時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品の連結貸借対照表計上額は次のとおりであります。

(単位：百万円)

区分	2019年3月31日現在
有価証券	
非上場株式等 ^{(注)1} ^{(注)3}	142,641
組合出資金等 ^{(注)2} ^{(注)3}	213,359
合計	356,001

(注)1.非上場株式等につきましては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象とはしていません。

2.市場価格のない出資金等であります。組合等への出資のうち、組合の貸借対照表及び損益計算書を純額で取り込む方法により経理しているものについての出資簿価部分を含んでおります。

3.非上場株式及び組合出資金等について、当連結会計年度において9,443百万円減損処理を行っております。

(4)金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
預け金	54,539,760	142,010	8,980	1,125
コールローン及び買入手形	2,616,537	49,206	—	—
買現先勘定	4,823,261	72,150	—	—
債券貸借取引支払保証金	1,440,159	—	—	—
買入金銭債権	3,575,758	514,675	161,745	286,006
有価証券 ^{(注)1}	3,848,608	8,965,528	3,659,571	2,116,326
満期保有目的の債券	20,000	260,000	—	—
うち国債	20,000	260,000	—	—
地方債	—	—	—	—
社債	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
その他有価証券のうち満期があるもの	3,828,608	8,705,528	3,659,571	2,116,326
うち国債	1,217,500	4,080,400	520,900	335,700
地方債	—	11,072	87,188	7
社債	292,202	1,200,987	840,586	273,372
その他	2,318,906	3,413,067	2,210,896	1,507,246
貸出金 ^{(注)1} ^{(注)2}	18,989,644	31,544,194	13,550,179	6,660,292
外国為替 ^{(注)1}	1,699,499	15,882	—	—
リース債権及びリース投資資産	38,813	55,765	23,295	64,866
合計	91,572,043	41,359,413	17,403,772	9,128,618

(注)1.破綻先、実質破綻先及び破綻懸念先に対する債権等、償還予定額が見込めないものは含めておりません。当該金額の内訳は、有価証券12,958百万円、貸出金407,858百万円、外国為替378百万円です。

2.期間の定めのないものは含めておりません。当該金額の内訳は、貸出金8,636,689百万円です。

(5) 社債、借入金及びその他の有利子負債の連結決算日後の返済予定額

(単位：百万円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
預金 ^(注)	119,032,075	3,496,172	182,195	480,387
譲渡性預金	10,775,811	559,675	—	—
コールマネー及び売渡手形	572,778	—	—	—
売現先勘定	8,724,287	—	—	—
債券貸借取引受入担保金	680,051	—	—	—
コマーシャル・ペーパー	2,291,813	—	—	—
借入金	8,041,713	3,204,596	3,259,976	1,482,662
外国為替	1,196,960	—	—	—
社債	974,593	1,685,734	205,607	89,910
信託勘定借	1,228,223	124,550	—	—
合計	153,518,308	9,070,729	3,647,779	2,052,959

(注)預金のうち、要求払預金については、「1年以内」に含めて開示しております。なお、預金には、当座預金を含めております。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当行及び連結子会社は、従業員の退職給付に充てるため、積立型及び非積立型の確定給付制度並びに確定拠出制度を設けております。

積立型の確定給付制度は、主に確定給付企業年金制度及び退職給付信託を設定している退職一時金制度であります。

非積立型の確定給付制度は、退職給付信託を設定していない退職一時金制度であります。

なお、一部の連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。また、従業員の退職等に対して割増退職金を支払う場合があります。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

(単位：百万円)

退職給付債務の期首残高	1,017,068
勤務費用	32,218
利息費用	5,436
数理計算上の差異の発生額	33,369
退職給付の支払額	△50,909
過去勤務費用の発生額	—
企業結合の影響による増減額	5,186
その他	△2,200
退職給付債務の期末残高	1,040,167

(2) 年金資産の期首残高と期末残高の調整表

(単位：百万円)

年金資産の期首残高	1,388,284
期待運用収益	42,370
数理計算上の差異の発生額	△47,960
事業主からの拠出額	12,546
退職給付の支払額	△39,603
企業結合の影響による増減額	6,271
その他	△1,525
年金資産の期末残高	1,360,383

(3) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る資産及び退職給付に係る負債の調整表

(単位：百万円)

積立型制度の退職給付債務	△1,037,875
年金資産	1,360,383
	322,507
非積立型制度の退職給付債務	△2,292
連結貸借対照表に計上された資産と負債の純額	320,215
	(単位：百万円)
退職給付に係る資産	324,672
退職給付に係る負債	△4,457
連結貸借対照表に計上された資産と負債の純額	320,215

(4) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

(単位：百万円)

勤務費用	32,218
利息費用	5,436
期待運用収益	△42,370
数理計算上の差異の費用処理額	△15,430
過去勤務費用の費用処理額	△26
その他(臨時に支払った割増退職金等)	5,823
確定給付制度に係る退職給付費用	△14,350

(注)簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、主として「勤務費用」に含めて計上しております。

(5) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

過去勤務費用	26
数理計算上の差異	96,729
合計	96,756

(6) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

(単位：百万円)

未認識過去勤務費用	—
未認識数理計算上の差異	7,682
合計	7,682

(7) 年金資産に関する事項

① 年金資産の主な内訳

年金資産合計に対する主な分類ごとの比率は、次のとおりであります。

株式	60.4%
債券	16.4%
生保一般勘定	2.0%
その他	21.2%
合計	100.0%

(注)年金資産合計には、企業年金制度及び退職一時金制度に対して設定した退職給付信託が37.5%含まれております。

② 長期期待運用収益率の設定方法

年金資産の長期期待運用収益率は、現在及び予想される年金資産の構成と、年金資産を構成する各資産の現在及び将来期待される長期の収益率を考慮して設定しております。

(8) 数理計算上の計算基礎に関する事項

主要な数理計算上の計算基礎

① 割引率	当行及び国内連結子会社	△0.1%～0.5%
	在外連結子会社	2.4%～9.0%
② 長期期待運用収益率	当行及び国内連結子会社	1.5%～4.0%
	在外連結子会社	2.4%～9.0%

3. 確定拠出制度

当行及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、6,612百万円であります。

(ストック・オプション等関係)

1.ストック・オプションに係る費用計上額及び科目名

営業経費

29百万円

2.ストック・オプションの内容、規模及びその変動状況

連結子会社であるPT Bank BTPN Tbk

(1)ストック・オプションの内容

決議年月日	2015年3月26日		2015年3月26日		2016年4月29日	
付与対象者の区分及び人数(人)	同社役員 同社使用人	16 309	同社役員 同社使用人	1 4	同社使用人 332	
ストック・オプションの数(株) ^(注)	普通株式	141,575,000	普通株式	10,500,000	普通株式 56,645,000	
付与日	2015年4月15日		2016年10月10日		2016年9月21日	
権利確定条件	権利行使時に勤続		権利行使時に勤続		権利行使時に勤続	
対象勤務期間	定めがない		定めがない		定めがない	
権利行使期間	2017年 5 月 1 日から30日間 2017年 11 月 6 日から30日間 2018年 5 月 7 日から30日間 2018年 11 月 5 日から30日間 2019年 5 月 6 日から30日間 2019年 12 月 2 日から30日間		2017年 5 月 1 日から30日間 2017年 11 月 6 日から30日間 2018年 5 月 7 日から30日間 2018年 11 月 5 日から30日間 2019年 5 月 6 日から30日間 2019年 12 月 2 日から30日間		2018年 5 月 28日から30日間 2018年 12 月 17日から30日間 2019年 5 月 28日から30日間 2019年 12 月 19日から30日間 2020年 6 月 1 日から30日間 2020年 12 月 17日から30日間	

(注)株式数に換算して記載しております。

(2)ストック・オプションの規模及びその変動状況

①ストック・オプションの数^(注)

決議年月日	2015年3月26日	2015年3月26日	2016年4月29日
権利確定前(株)			
前連結会計年度末	98,540,000	9,600,000	38,383,500
付与	—	—	—
失効	15,300,000	—	63,000
権利確定	—	—	424,000
未確定残	83,240,000	9,600,000	37,896,500
権利確定後(株)			
前連結会計年度末	—	—	—
権利確定	—	—	424,000
権利行使	—	—	424,000
失効	—	—	—
未行使残	—	—	—

(注)1.株式数に換算して記載しております。

2.前連結会計年度末の株式数については、みなし取得日である2019年1月1日現在の残高を記載しております。

②単価情報

決議年月日	2015年3月26日	2015年3月26日	2016年4月29日
権利行使価格(IDR)	4,000.00	4,000.00	2,617.00
行使時平均株価(IDR)	—	—	3,711.67
付与日における公正な評価単価(IDR)	1,408.90	1,408.90	712.81

③ストック・オプションの権利確定数の見積方法

基本的には、将来の失効数の合理的な見積りは困難であるため、実績の失効数のみ反映させる方法を採用しております。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

(単位: 百万円)

2019年3月31日現在

繰延税金資産	
貸倒引当金及び貸出金償却	122,726
有価証券	50,730
税務上の繰越欠損金 ^(注)	45,242
繰延ヘッジ損益	17,721
退職給付に係る負債	13,044
その他	96,401
繰延税金資産小計	345,867
税務上の繰越欠損金に係る評価性引当額 ^(注)	△4,432
将来減算一時差異等の合計に係る評価性引当額	△63,666
評価性引当額小計	△68,099
繰延税金資産合計	277,767
繰延税金負債	
その他有価証券評価差額金	△528,793
減価償却費	△44,994
子会社の留保利益	△33,111
その他	△94,463
繰延税金負債合計	△701,361
繰延税金資産(負債)の純額	△423,594

(注)税務上の繰越欠損金及びその繰延税金資産の繰越期限別の金額

(単位: 百万円)

	1年以内	1年超 5年以内	5年超 10年以内	10年超	合計
税務上の繰越欠損金 ^(注)	34	97	3,919	41,190	45,242
評価性引当額	△25	△65	△3,032	△1,308	△4,432
繰延税金資産	8	32	886	39,881	40,809

(※)税務上の繰越欠損金は、法定実効税率を乗じた額であります。

2. 当行の法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異の原因となった主な項目別の内訳

(単位: %)

2019年3月31日現在

当行の法定実効税率	30.58
(調整)	
当行と在外連結子会社との法定実効税率差異	△1.65
持分法による投資損益	△1.54
評価性引当額	△1.05
事業税所得差額	△0.90
受取配当金益金不算入	△0.78
その他	0.04
税効果会計適用後の法人税等の負担率	24.70

(「税効果会計に係る会計基準」の一部改正)の適用に伴う変更)

「税効果会計に係る会計基準」の一部改正(企業会計基準第28号平成30年2月16日。以下「税効果会計基準一部改正」という。)を当連結会計年度から適用し、税効果会計注記を変更しております。税効果会計注記において、税効果会計基準一部改正第3項から第5項に定める「税効果会計に係る会計基準」注解(注8)(評価性引当額の合計額を除く。)及び同注解(注9)に記載された内容を追加しております。

(資産除去債務関係)

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(賃貸等不動産関係)

賃貸等不動産関係について記載すべき重要なものはありません。

(関連当事者情報)

1. 関連当事者との取引

関連当事者との取引について記載すべき重要なものはありません。

2. 親会社又は重要な関連会社に関する注記

親会社情報

株式会社三井住友フィナンシャルグループ(東京、名古屋、ニューヨーク証券取引所に上場)

(企業結合等関係)

取得による企業結合

PT Bank Tabungan Pensiunan Nasional Tbkの連結子会社化
当行は、2019年1月30日にPT Bank Tabungan Pensiunan Nasional Tbk(以下、「BTPN」)の普通株式を取得し、同社及び同社の子会社1社を連結子会社といたしました。

なお、BTPNは、2019年2月1日にインドネシア三井住友銀行と合併し、PT Bank BTPN Tbkに商号変更しております。

取得による企業結合の概要は、次のとおりであります。

1. 企業結合の概要

(1) 被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 PT Bank Tabungan Pensiunan Nasional Tbk
事業の内容 銀行業

(2) 企業結合を行った主な理由

インドネシアにおけるマルチフランチャイズ戦略を推進するため、ホールセール・リテール業務を一つの銀行で手掛けるフルラインの商業銀行を展開し、より幅広い金融サービスを提供できる体制を構築することを狙いとして、BTPNを連結子会社といたしました。

(3) 企業結合日

2019年1月30日

(4) 企業結合の法的形式

株式取得

(5) 結合後企業の名称

株式会社三井住友銀行

(6) 取得した議決権比率

企業結合直前に所有していた議決権比率	40.58%
企業結合日に追加取得した議決権比率	57.92%
取得後の議決権比率	98.50%

(7) 取得企業を決定するに至った主な根拠

当行がBTPNの議決権の過半数を取得し、連結子会社としたため。

2. 連結財務諸表に含まれている被取得企業の業績の期間

2019年1月1日から2019年3月31日まで

なお、連結損益計算書上、2018年4月1日から2018年12月31日までの被取得企業に係る損益は、持分法による投資損益として計上しております。

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

企業結合直前に所有していたBTPNの普通株式の企業結合時における時価	78,025百万円
企業結合日に追加取得したBTPNの普通株式の対価(現金)	111,365百万円
被取得企業の取得原価	189,390百万円

4. 被取得企業の取得原価と取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額との差額

被取得企業の取得原価	189,390百万円
取得するに至った取引ごとの取得原価の合計額	187,105百万円
差額(段階取得に係る差益)	2,285百万円

5. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザー費用等	776百万円
-----------	--------

6.発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

- (1)発生したのれん
4,707百万円
- (2)発生原因
取得原価が企業結合時における時価純資産の持分相当額を上回ったため、その差額をのれんとして認識しております。
- (3)償却方法及び償却期間
金額に重要性が乏しいため、発生年度に全額償却しております。

7.企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

(1)資産の額	
資産の部合計	837,523百万円
うち貸出金	522,918百万円
(2)負債の額	
負債の部合計	643,346百万円
うち預金	538,529百万円

8.取得原価のうちののれん以外の無形固定資産に配分された金額及びその種類別の内訳並びに全体及び種類別の加重平均償却期間

のれん以外の無形固定資産に配分された金額	50,653百万円	償却期間	13年
うち市場関連資産	9,706百万円	償却期間	20年
うち顧客関連資産	12,845百万円	償却期間	18年
うちコア預金	28,102百万円	償却期間	9年

9.企業結合が連結会計年度開始の日に完了したと仮定した場合の当連結会計年度の連結損益計算書に及ぼす影響の概算額及び算定方法

当該影響の概算額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

(単位：円)

1株当たり純資産額	81,936.56
1株当たり当期純利益	5,811.79
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	5,811.60

(注)1.1株当たり当期純利益及び潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

1株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益	617,493百万円
普通株主に帰属しない金額	—百万円
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益	617,493百万円
普通株式の期中平均株式数	106,248千株
潜在株式調整後1株当たり当期純利益	
親会社株主に帰属する当期純利益調整額	△20百万円
(うち連結子会社及び持分法適用関連会社の潜在株式による調整額)	(△20百万円)
普通株式増加数	—千株
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり当期純利益の算定に含めなかった潜在株式の概要	—

2.1株当たり純資産額の算定上の基礎は、次のとおりであります。

純資産の部の合計額	8,986,749百万円
純資産の部の合計額から控除する金額	281,121百万円
(うち新株予約権)	(2,210百万円)
(うち非支配株主持分)	(278,910百万円)
普通株式に係る期末の純資産額	8,705,628百万円
1株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数	106,248千株

(重要な後発事象)

重要な後発事象について記載すべきものではありません。

有価証券の範囲等

- ※ 1. 連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「特定取引資産」中の商品有価証券及び短期社債、「現金預け金」中の譲渡性預け金並びに「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めて記載しております。
- ※ 2. 「子会社株式及び関連会社株式」については、財務諸表における注記事項として記載しております。

(1) 売買目的有価証券

(単位：百万円)

	2019年3月末
連結会計年度の損益に含まれた評価差額	471

(2) 満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種類	2019年3月末		
		連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	国債	280,247	281,136	888
	地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	280,247	281,136	888
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	国債	—	—	—
	地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	—	—	—
合計		280,247	281,136	888

(3) その他有価証券

(単位：百万円)

	種類	2019年3月末		
		連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	3,051,638	1,204,569	1,847,069
	債券	8,094,287	8,031,868	62,419
	国債	5,547,344	5,523,497	23,847
	地方債	89,608	88,868	740
	社債	2,457,334	2,419,502	37,831
	その他	5,577,902	5,381,566	196,336
	小計	16,723,829	14,618,004	2,105,824
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	155,780	183,148	△27,368
	債券	889,443	891,497	△2,053
	国債	686,982	687,573	△591
	地方債	9,555	9,560	△4
	社債	192,906	194,363	△1,457
	その他	5,204,367	5,333,304	△128,937
	小計	6,249,590	6,407,949	△158,358
合計		22,973,419	21,025,954	1,947,465

(注)1. 差額のうち、時価ヘッジの適用により損益に反映させた額は12,277百万円(費用)であります。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額
株式	113,887
その他	242,113
合計	356,001

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(4) 当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券

該当ありません。

(5) 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

種類	2018年度		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	201,875	92,551	△1,063
債券	8,070,485	11,418	△2,154
国債	7,797,751	10,798	△2,065
地方債	80,253	67	△71
社債	192,480	551	△17
その他	9,580,861	49,165	△36,953
合計	17,853,222	153,136	△40,171

(6) 保有目的を変更した有価証券

記載すべき重要なものはありません。

(7) 減損処理を行った有価証券

満期保有目的の債券及びその他有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したものについては、原則として時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって連結貸借対照表計上額とし、評価差額を当連結会計年度の損失として処理(以下、「減損処理」という)しております。当連結会計年度におけるこの減損処理額は7,653百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べて下落
要注意先	時価が取得原価に比べて30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、破綻先とは破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

有価証券関係 (2017年度 自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

有価証券の範囲等

※ 1. 連結貸借対照表の「有価証券」のほか、「特定取引資産」中の商品有価証券及び短期社債、「現金預け金」中の譲渡性預け金並びに「買入金銭債権」中の貸付債権信託受益権等も含めて記載しております。

※ 2. 「子会社株式及び関連会社株式」については、財務諸表における注記事項として記載しております。

(1) 売買目的有価証券

(単位：百万円)

	2018年3月末
連結会計年度の損益に含まれた評価差額	296

(2) 満期保有目的の債券

(単位：百万円)

	種類	2018年3月末		
		連結貸借対照表計上額	時価	差額
時価が連結貸借対照表計上額を超えるもの	国債	370,463	372,596	2,132
	地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	370,463	372,596	2,132
時価が連結貸借対照表計上額を超えないもの	国債	2,000	2,000	—
	地方債	—	—	—
	社債	—	—	—
	その他	—	—	—
	小計	2,000	2,000	—
合計		372,463	374,596	2,132

(3) その他有価証券

(単位：百万円)

	種類	2018年3月末		
		連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	3,441,022	1,375,362	2,065,659
	債券	7,011,713	6,959,088	52,625
	国債	4,797,431	4,779,687	17,743
	地方債	14,051	14,004	47
	社債	2,200,230	2,165,396	34,834
	その他	3,266,857	3,097,180	169,676
	小計	13,719,593	11,431,632	2,287,961
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	株式	104,303	120,524	△16,221
	債券	4,855,610	4,863,829	△8,219
	国債	4,405,604	4,410,865	△5,260
	地方債	32,980	33,076	△95
	社債	417,025	419,887	△2,862
	その他	5,925,812	6,126,783	△200,971
	小計	10,885,725	11,111,137	△225,411
合計	24,605,319	22,542,770	2,062,549	

(注) 1. 差額のうち、時価ヘッジの適用により損益に反映させた額は15百万円(収益)であります。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められるその他有価証券

(単位：百万円)

	連結貸借対照表計上額
株式	112,262
その他	248,390
合計	360,653

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

(4) 当連結会計年度中に売却した満期保有目的の債券

該当ありません。

(5) 当連結会計年度中に売却したその他有価証券

(単位：百万円)

種類	2017年度		
	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	199,049	104,423	△84
債券	6,476,910	9,798	△2,024
国債	6,088,215	9,534	△86
地方債	89,854	9	△342
社債	298,839	254	△1,595
その他	6,853,132	51,267	△22,349
合計	13,529,092	165,488	△24,458

(6) 保有目的を変更した有価証券

記載すべき重要なものはありません。

(7) 減損処理を行った有価証券

満期保有目的の債券及びその他有価証券(時価を把握することが極めて困難なものを除く)のうち、当該有価証券の時価が取得原価に比べて著しく下落したものについては、原則として時価が取得原価まで回復する見込みがないものとみなして、当該時価をもって連結貸借対照表計上額とし、評価差額を当連結会計年度の損失として処理(以下、「減損処理」という)しております。当連結会計年度におけるこの減損処理額は3,233百万円であります。時価が「著しく下落した」と判断するための基準は、資産の自己査定基準において、有価証券の発行会社の区分毎に次のとおり定めております。

破綻先、実質破綻先、破綻懸念先	時価が取得原価に比べて下落
要注意先	時価が取得原価に比べて30%以上下落
正常先	時価が取得原価に比べて50%以上下落

なお、破綻先とは破産、特別清算等、法的に経営破綻の事実が発生している発行会社、実質破綻先とは破綻先と同等の状況にある発行会社、破綻懸念先とは現在は経営破綻の状況にないが今後経営破綻に陥る可能性が大きいと認められる発行会社、要注意先とは今後の管理に注意を要する発行会社であります。また、正常先とは破綻先、実質破綻先、破綻懸念先及び要注意先以外の発行会社であります。

金銭の信託関係

(2018年度 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(1)運用目的の金銭の信託

該当ありません。

(2)満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

(3)その他の金銭の信託

(運用目的及び満期保有目的以外の金銭の信託)

(単位：百万円)

	2019年3月末		
	連結貸借 対照表 計上額	取得原価	差額
その他の 金銭の信託	0	0	—

その他有価証券評価差額金

(2018年度 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

連結貸借対照表に計上されている「その他有価証券評価差額金」の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2019年3月末
評価差額	1,959,748
その他有価証券	1,959,748
その他の金銭の信託	—
(△)繰延税金負債	530,923
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	1,428,824
(△)非支配株主持分相当額	1,444
(+)持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	△886
その他有価証券評価差額金	1,426,493

(注)1.時価ヘッジの適用により損益に反映させた額12,277百万円(費用)は、その他有価証券の評価差額より控除しております。

2.その他有価証券の評価差額は時価を把握することが極めて困難な外貨建有価証券の為替換算差額(損益処理分を除く)を含んでおります。

金銭の信託関係

(2017年度 自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

(1)運用目的の金銭の信託

該当ありません。

(2)満期保有目的の金銭の信託

該当ありません。

(3)その他の金銭の信託

(運用目的及び満期保有目的以外の金銭の信託)

(単位：百万円)

	2018年3月末		
	連結貸借 対照表 計上額	取得原価	差額
その他の 金銭の信託	0	0	—

その他有価証券評価差額金

(2017年度 自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

連結貸借対照表に計上されている「その他有価証券評価差額金」の内訳は、次のとおりであります。

(単位：百万円)

	2018年3月末
評価差額	2,062,570
その他有価証券	2,062,570
その他の金銭の信託	—
(△)繰延税金負債	555,463
その他有価証券評価差額金(持分相当額調整前)	1,507,107
(△)非支配株主持分相当額	2,137
(+)持分法適用会社が所有するその他有価証券に係る評価差額金のうち親会社持分相当額	4,279
その他有価証券評価差額金	1,509,249

(注)1.時価ヘッジの適用により損益に反映させた額15百万円(収益)は、その他有価証券の評価差額より控除しております。

2.その他有価証券の評価差額は時価を把握することが極めて困難な外貨建有価証券の為替換算差額(損益処理分を除く)を含んでおります。

1.ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1)金利関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2019年3月末			
		契約額等	2019年1年初	時価	評価損益
金融商品取引所	金利先物				
	売建	30,533,013	3,061,730	△16,015	△16,015
	買建	28,898,271	5,902,494	16,633	16,633
	金利オプション				
	売建	3,452,722	3,286,192	△1,929	△1,929
	買建	130,788,808	65,425,283	24,009	24,009
店頭	金利先渡契約				
	売建	26,319,818	1,420,320	12,029	12,029
	買建	28,150,897	1,305,595	△12,572	△12,572
	金利スワップ	410,372,922	323,711,048	288,870	288,870
	受取固定・支払変動	181,019,374	142,155,010	2,517,766	2,517,766
	受取変動・支払固定	173,925,927	139,510,567	△2,235,385	△2,235,385
	受取変動・支払変動	55,404,477	42,022,327	△1,127	△1,127
	金利スワップション				
	売建	3,744,422	2,417,827	△3,498	△3,498
	買建	3,245,818	2,348,653	16,234	16,234
	キャップ				
	売建	48,005,582	31,812,644	△57,654	△57,654
	買建	10,945,207	7,906,304	6,360	6,360
	フローアー				
	売建	831,796	659,715	△2,633	△2,633
	買建	1,196,804	719,639	3,786	3,786
	その他				
売建	1,519,045	772,769	△3,053	△3,053	
買建	7,769,837	6,281,874	31,891	31,891	
合計			302,457	302,457	

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(2)通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2019年3月末			
		契約額等	2019年1年初	時価	評価損益
金融商品取引所	通貨先物				
	売建	2,833	—	21	21
	買建	1,109	—	0	0
店頭	通貨スワップ	43,597,879	32,086,742	40,840	34,837
	通貨スワップション				
	売建	341,280	256,973	△628	△628
	買建	817,560	708,288	1,484	1,484
	為替予約	80,511,550	11,018,585	21,781	21,781
	通貨オプション				
	売建	2,060,828	728,015	△8,624	△8,624
買建	1,916,405	573,298	19,968	19,968	
合計			74,844	68,841	

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(3)株式関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2019年3月末			
		契約額等	2019年1年初	時価	評価損益
金融商品取引所	株式指数先物				
	売建	267,437	—	684	684
	買建	235,057	—	△779	△779
	株式指数オプション				
	売建	—	—	—	—
	買建	8,587	—	19	19
店頭	有価証券店頭オプション				
	売建	227,601	227,601	△4,349	△4,349
	買建	198,864	198,864	6,892	6,892
合計				2,467	2,467

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(4)債券関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2019年3月末			
		契約額等	2019年1年初	時価	評価損益
金融商品取引所	債券先物				
	売建	1,939,537	—	△28,023	△28,023
	買建	1,673,557	—	26,668	26,668
	債券先物オプション				
	売建	121,308	—	△298	△298
	買建	35,308	—	113	113
店頭	債券店頭オプション				
	売建	110,000	—	△263	△263
	買建	199,736	83,476	676	676
合計				△1,127	△1,127

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、オプション価格計算モデルにより算定しております。

(5)商品関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2019年3月末			
		契約額等	2019年1月1日	時価	評価損益
金融商品取引所	商品先物				
	売建	14,158	—	326	326
	買建	14,664	—	△296	△296
店頭	商品スワップ				
	固定価格受取・変動価格支払	91,437	42,874	△1,163	△1,163
	変動価格受取・固定価格支払	89,660	41,086	3,089	3,089
	変動価格受取・変動価格支払	2,018	1,461	△10	△10
	商品オプション				
	売建	7,918	2,678	△401	△401
	買建	5,796	778	12	12
合計				1,556	1,556

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、ニューヨーク・マーカンタイル取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定しております。

3.商品は燃料及び金属等に係るものであります。

(6)クレジット・デリバティブ取引

(単位：百万円)

区分	種類	2019年3月末			
		契約額等	2019年1月1日	時価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・オプション				
	売建	101,598	86,713	874	874
	買建	228,836	177,697	△1,905	△1,905
合計				△1,031	△1,031

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

3.売建は信用リスクの引受取引、買建は信用リスクの引渡取引であります。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1)金利関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2019年3月末		
			契約額等	2019年1月1日	時価
原則的処理方法	金利先物	貸出金、その他の有価証券、預金、譲渡性預金等の有利利息の金融資産・負債	2,220,000	2,220,000	△149
	売建		—	—	—
	買建		—	—	—
	金利スワップ		33,822,621	30,249,753	252,739
	受取固定・支払変動 受取変動・支払固定		14,441,731	12,969,450	△281,999
金利スワップオプション	売建		157,065	157,065	3,441
	買建		—	—	—
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	金利スワップ	貸出金	—	—	—
	受取固定・支払変動 受取変動・支払固定		301,178	291,450	△3,274
金利スワップの特例処理	金利スワップ	借入金、社債	68,690	66,690	(注)3
	受取変動・支払固定		—	—	—
合計					△29,242

(注)1.主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

3.金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている借入金等と一体として処理されているため、その時価は「注記事項 金融商品関係 2.金融商品の時価等に関する事項」の当該借入金等の時価に含めて記載しております。

(2)通貨関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2019年3月末		
			契約額等	2019年1月1日	時価
原則的処理方法	通貨スワップ	外貨建の貸出金、その他の有価証券、預金、外国為替等	7,828,136	5,000,432	△22,720
	為替予約		2,772	—	△218
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	通貨スワップ	貸出金、その他の有価証券	186,032	131,640	5,056
			—	—	—
合計					△17,882

(注)1.主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2.時価の算定

割引現在価値により算定しております。

(3)株式関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2019年3月末		
			契約額等	2019年1月1日	時価
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	有価証券店頭指数等スワップ	その他有価証券	48,510	48,510	1,826
	金利変動・株価変動変化率支払		—	—	—
合計					1,826

(注) 時価の算定

割引現在価値により算定しております。

1.ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されていないデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごとの連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額、時価及び評価損益並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1)金利関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2018年3月末			
		契約額等	2017年超	時価	評価損益
金融商品取引所	金利先物				
	売建	37,301,443	6,925,140	16,067	16,067
	買建	37,215,533	6,842,217	△14,654	△14,654
	金利オプション				
	売建	1,391,595	45,200	△300	△300
	買建	65,110,433	29,958,221	4,520	4,520
店頭	金利先渡契約				
	売建	12,680,558	521,495	△4,656	△4,656
	買建	12,344,032	435,954	4,594	4,594
	金利スワップ	392,352,034	309,485,419	98,188	98,188
	受取固定・支払変動	178,396,705	141,433,136	1,643,051	1,643,051
	受取変動・支払固定	175,715,121	139,776,404	△1,561,491	△1,561,491
	受取変動・支払変動	38,214,569	28,250,240	7,294	7,294
	金利スワップション				
	売建	3,401,342	2,486,121	16,314	16,314
	買建	3,063,761	2,356,845	△2,673	△2,673
	キャップ				
	売建	39,496,432	25,398,931	△27,541	△27,541
	買建	8,913,567	7,137,545	734	734
	フロアー				
	売建	594,212	536,582	△550	△550
	買建	1,066,673	900,378	617	617
	その他				
売建	1,449,762	701,009	△2,589	△2,589	
買建	15,456,836	13,055,363	15,918	15,918	
合計			103,990	103,990	

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(2)通貨関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2018年3月末			
		契約額等	2017年超	時価	評価損益
金融商品取引所	通貨先物				
	売建	513	—	△18	△18
	買建	175	—	0	0
店頭	通貨スワップ	37,828,403	25,613,475	51,115	73,992
	通貨スワップション				
	売建	431,065	375,092	△3,156	△3,156
	買建	874,253	772,102	5,364	5,364
	為替予約	75,511,503	8,662,543	20,253	20,253
	通貨オプション				
	売建	1,766,474	763,184	△18,403	△18,403
買建	1,668,580	679,024	29,576	29,576	
合計			84,731	107,608	

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデル等により算定しております。

(3)株式関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2018年3月末			
		契約額等	2017年超	時価	評価損益
金融商品取引所	株式指数先物				
	売建	229,149	—	△776	△776
	買建	248,773	—	551	551
	株式指数オプション				
	売建	18,000	—	△10	△10
	買建	220,765	—	335	335
店頭	有価証券店頭オプション				
	売建	207,133	207,133	△6,512	△6,512
	買建	207,133	207,133	6,470	6,470
合計			57	57	

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

(4)債券関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2018年3月末			
		契約額等	2017年超	時価	評価損益
金融商品取引所	債券先物				
	売建	1,895,279	—	△10,463	△10,463
	買建	1,512,261	—	9,812	9,812
	債券先物オプション				
	売建	169,687	—	△337	△337
	買建	15,000	—	6	6
店頭	債券店頭オプション				
	売建	50,000	—	△73	△73
	買建	150,066	100,066	531	531
合計			△523	△523	

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、大阪取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、オプション価格計算モデルにより算定しております。

(5)商品関連取引

(単位：百万円)

区分	種類	2018年3月末			
		契約額等	2017年超	時価	評価損益
金融商品取引所	商品先物				
	売建	10,401	—	△191	△191
	買建	10,500	—	129	129
店頭	商品スワップ				
	固定価格受取・変動価格支払	63,231	51,460	2,549	2,549
	変動価格受取・固定価格支払	62,061	50,443	△503	△503
	変動価格受取・変動価格支払	3,173	1,922	164	164
	商品オプション				
	売建	7,190	6,384	△533	△533
	買建	4,978	4,189	△8	△8
合計				1,606	1,606

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、ニューヨーク・マーカンタイル取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、取引対象物の価格、契約期間等の構成要素に基づき算定しております。

3.商品は燃料及び金属等に係るものであります。

(6)クレジット・デリバティブ取引

(単位：百万円)

区分	種類	2018年3月末			
		契約額等	2017年超	時価	評価損益
店頭	クレジット・デフォルト・オプション				
	売建	86,781	60,781	903	903
	買建	217,655	165,655	△2,968	△2,968
合計				△2,064	△2,064

(注)1.上記取引については時価評価を行い、評価損益を連結損益計算書に計上しております。

2.時価の算定

割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

3.売建は信用リスクの引受取引、買建は信用リスクの引渡取引であります。

2.ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引

ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引について、取引の対象物の種類ごと、ヘッジ会計の方法別の連結決算日における契約額又は契約において定められた元本相当額及び時価並びに当該時価の算定方法は、次のとおりであります。なお、契約額等については、その金額自体がデリバティブ取引に係る市場リスクを示すものではありません。

(1)金利関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2018年3月末		
			契約額等	2017年超	時価
原則的処理方法	金利先物	貸出金、その他有価証券、預金、譲渡性預金等の有利息の金融資産・負債			
	売建		16,675,512	11,044,262	4,287
	買建		1,593,750	—	79
	金利スワップ				
	受取固定・支払変動		35,415,915	27,945,628	△59,991
	受取変動・支払固定		14,650,380	13,290,412	42,221
	金利スワップション				
	売建		150,343	150,343	△2,569
	買建		—	—	—
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	金利スワップ	貸出金			
	受取固定・支払変動		9,705	—	5
	受取変動・支払固定		201,714	187,519	△1,245
金利スワップの特例処理	金利スワップ	借入金			
			受取変動・支払固定	4,500	4,500
合計					△17,212

(注)1.主として「銀行業における金融商品会計基準適用に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第24号 平成14年2月13日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2.時価の算定

取引所取引につきましては、東京金融取引所等における最終の価格によっております。店頭取引につきましては、割引現在価値やオプション価格計算モデルにより算定しております。

3.金利スワップの特例処理によるものは、ヘッジ対象とされている借入金等と一体として処理されているため、その時価は「注記事項 金融商品関係 2.金融商品の時価等に関する事項」の当該借入金等の時価に含めて記載しております。

(2)通貨関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2018年3月末		
			契約額等	2017年超	時価
原則的処理方法	通貨スワップ	外貨建の貸出金、その他の有価証券、預金、外国為替等			
			5,973,037	3,137,205	166,132
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	通貨スワップ	貸出金、外国為替			
			146,889	127,037	△17,089
合計					149,043

(注)1.主として「銀行業における外貨建取引等の会計処理に関する会計上及び監査上の取扱い」(日本公認会計士協会業種別監査委員会報告第25号 平成14年7月29日)に基づき、繰延ヘッジによっております。

2.時価の算定

割引現在価値により算定しております。

(3)株式関連取引

(単位：百万円)

ヘッジ会計の方法	種類	主なヘッジ対象	2018年3月末		
			契約額等	2017年超	時価
ヘッジ対象に係る損益を認識する方法	有価証券店頭指数等スワップ 金契約、株価指数変化支払	その他の有価証券			
			2,218	2,218	△155
合計					△155

(注) 時価の算定

割引現在価値により算定しています。

セグメント情報等

1.セグメント情報

(1)報告セグメントの概要

当グループの報告セグメントは、当グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会や経営会議が、経営資源の配分の決定や業績評価のために、定期的に経営成績等の報告を受ける対象となっているものであります。

それぞれの報告セグメントが担当する業務は以下のとおりであります。

ホールセール部門：国内の大企業及び中堅企業のお客さまに対応した業務
 リテール部門：国内の個人及び中小企業のお客さまに対応した業務
 国際部門：海外の日系・非日系企業等のお客さまに対応した業務
 市場営業部門：金融マーケットに対応した業務
 本社管理：上記各部門に属さない業務等

(2)報告セグメントごとの利益又は損失の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。が、複数の部門の協働により取引を獲得した際には、社内管理会計の取扱いに則り、実際の収益額に基づき算定した金額を協働した部門に計上しております。

なお、資産につきましては、事業セグメント別の管理を行っておりません。

(3)報告セグメントごとの利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	2018年度					
	ホールセール部門	リテール部門	国際部門	市場営業部門	本社管理等	合計
連結粗利益	726,329	451,688	690,640	321,483	△411,213	1,778,926
経費	△298,346	△378,538	△318,902	△49,311	35,687	△1,009,410
持分法による投資損益	—	1,609	19,800	—	23,363	44,772
連結業務純益	427,982	74,759	391,538	272,172	△352,163	814,288

(注)1.損失の場合には、金額頭部に△を付しております。
 2.「本社管理等」には、内部取引として消去すべきものを含めております。

(単位：百万円)

	2017年度					
	ホールセール部門	リテール部門	国際部門	市場営業部門	本社管理等	合計
連結粗利益	719,291	480,794	631,004	332,383	△315,768	1,847,704
経費	△303,527	△394,728	△272,052	△47,254	△80,663	△1,098,224
持分法による投資損益	—	2,117	31,147	—	8,797	42,060
連結業務純益	415,765	88,183	390,098	285,129	△387,634	791,539

(注)1.損失の場合には、金額頭部に△を付しております。
 2.「本社管理等」には、内部取引として消去すべきものを含めております。

(4)報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	2018年度
連結業務純益	814,288
その他経常収益(除く持分法による投資利益)	160,424
その他経常費用	△80,212
連結損益計算書の経常利益	894,501

(注)損失の場合には、金額頭部に△を付しております。

(単位：百万円)

利益	2017年度
連結業務純益	791,539
その他経常収益(除く持分法による投資利益)	214,007
その他経常費用	△72,813
連結損益計算書の経常利益	932,733

(注)損失の場合には、金額頭部に△を付しております。